

平成26年7月18日

平成26年度第1回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

本日、生産者、流通業者、消費者等野菜の関係者が一堂に会する平成26年度第1回野菜需給協議会が開催され（7月18日（金）13:30～15:30、（独）農畜産業振興機構会議室）、「平成26年産夏秋野菜の需給・価格の見通し」等を確認しました。概要は下記のとおりです。

記

1 平成26年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて

- 野菜需給・価格情報委員会（平成26年7月11日開催）において、とりまとめられた「平成26年産夏秋春野菜の需給・価格の見通し」について説明があり、質疑が行われた（見通しの詳細については、別紙のとおり）。

【価格見通しのポイント】

- **夏秋キャベツ**は、期間を通じて順調な出荷となり、7月から10月の期間で高かった前年を下回る見込み。
- **夏だいこん**は、期間を通じて順調な出荷となり、7月から9月の期間で高かった前年を下回る見込み。
- **たまねぎ**は、期間を通じて府県産及び北海道産ともにおおむね順調な出荷となり、7月は府県産の出荷が多く、安かった前年並み、8月から10月の期間は北海道産の出荷が少なく、高かった前年を下回る見込み。
- **秋にんじん**は、期間を通じて順調な出荷となり、8月は高かった前年を下回り、9月及び10月は平年並みとなった前年並みの見込み。
- **夏はくさい**は、期間を通じて順調な出荷となり、7月から9月の期間で加工・業務用需要により高かった前年を下回る見込み。
- **夏秋レタス**は、期間を通じて順調な出荷となり、7月は少雨の影響で出荷が安定せず高かった前年を下回り、8月は生育が回復し安かった前年を上回り、9月及び10月は順調な出荷があった前年並みの見込み。

2 野菜の消費拡大活動等について

- 主婦連合会、青果物健康推進協会、全国農業協同組合連合会及び農林水産省より、野菜の消費拡大の取組みについて説明があった。
- 協議会の取組みとして、「野菜の日」（8月31日）の前々日の8月29日（金）にイイノカンファレンスセンターで、「野菜シンポジウム」を開催することとした。
- 一般社団法人トマト工業会より、加工用トマトの現状等について説明があった

3 その他

会員から以下のような発言があった。

- 物流トラックの就労時間の制限強化等に伴う生鮮野菜の輸送については、コスト上昇等に対応する集荷拠点ルートや輸送手段の多様化の検討の動きについて報告があった。
- 新しい野菜等の情報（品種、機能性等）の提供の重要性について指摘があった。
- 食品の機能性表示の動きについては、野菜は機能性に偏った摂取とならないようにバランスよく必要な量を摂取することが重要であるとの意見があった。
- 4月の消費税増税については、生鮮食品ではバランスの良い食生活を送るために必要なものを選んでおり、極端な買い控えなどの影響はあまりみられないとの報告があった。

【参 考】 配付資料等については、ホームページで公表します。

(問い合わせ先)

独立行政法人農畜産業振興機構

野菜需給部 需給推進課

前川、平野、濱名、平川

電話番号：03-3583-9449

平成26年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて

1 夏秋キャベツ（7～10月）

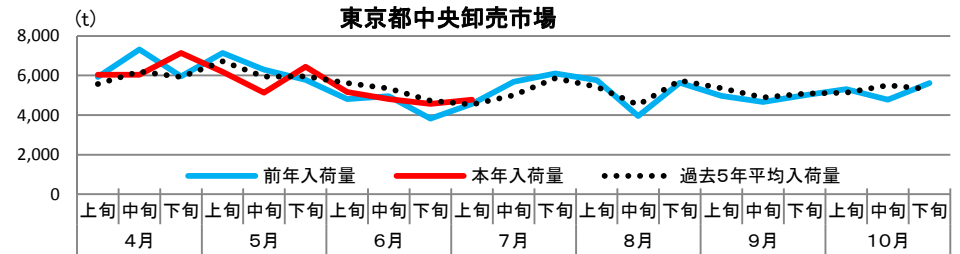
主産地の動向等

- 主な産地：群馬、長野、北海道
 - 作付面積は、群馬は99%、長野は101%、北海道は98%。
 - 生育状況は、群馬は、豪雪の影響で播種に遅れが生じたが、播種後の生育は順調に推移し、定植作業開始は平年並みであった。今後は、長雨による病害虫の発生が懸念される。また、8玉サイズ中心の出荷となるように前倒し出荷を推進している。長野は、干ばつ・低温の影響でやや小玉傾向の見込みであったが、6月の降雨で回復傾向。現在の出荷比率は、2Lが30%、Lが65%と前年並み。北海道は、4月末に降霜のあった地区で一部、植替えが発生。また、6月の長雨の影響で定植が遅れた地区もある。全体的には、やや遅れている状況。
 - 出荷開始は、群馬は6月、長野は6月中旬、北海道は7月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みが多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

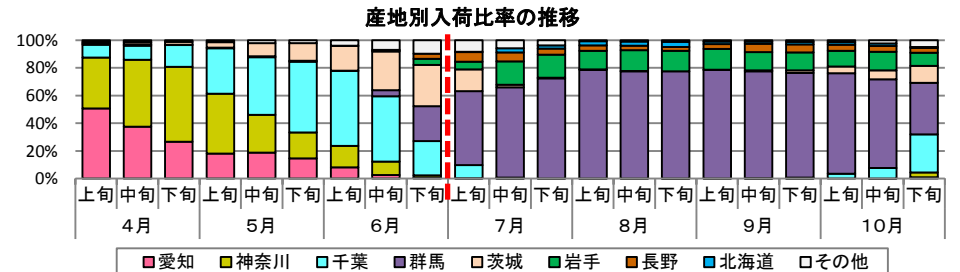
- 供給見通し
 - 作付面積は、前年並みの見込み。長野は微増。
 - 生育状況は、群馬は順調に推移、長野は干ばつ・低温の影響でやや小玉傾向であったが6月の降雨で回復傾向、北海道は6月の長雨の影響で一部の地区で定植が遅れ、また全体的に生育がやや遅れている。
 - 出荷量は、期間を通じて安定した出荷が見込まれ、前年をわずかに上回る見込み。
- 需要・価格見通し
 - 価格は、前年、群馬等が生育の停滞や降雨の影響で入荷量が少なく高めで推移したのに対し、本年は順調な出荷が見込まれるため、期間を通じて前年を下回る見込み。
 - 加工・業務用は、常に一定の原料確保が必要となるため、相場が高い時でも市場から調達するが、市場価格が更に一定以上高くなった場合は、中国からの輸入量が増加することが見られる。

入荷量の推移等

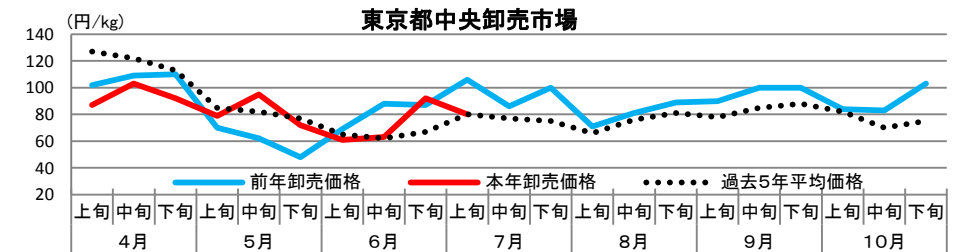


《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
前年比	↗	→	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
前年比	↘	↘	↘	↘

2 夏だいこん（7～9月）

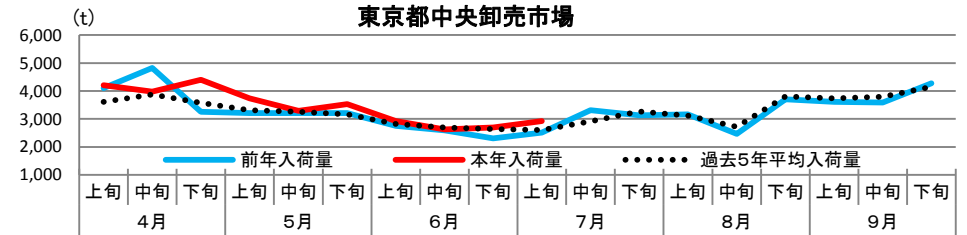
主産地の動向等

- 主な産地：北海道、青森、岐阜
 - 作付面積は、北海道は99%、青森は101%、岐阜は100%。
 - 生育状況は、北海道は、天候に恵まれ、播種作業は順調に進んだ。干ばつのため、地区によっては生育遅れが見られたが、6月の降雨で回復傾向。青森は、春まきは播種作業および生育が順調で現在、出荷中。初夏まきは天候不順の影響で播種時期に、ややバラつきが出ている。岐阜は、概ね順調に推移している。
 - 出荷開始は、北海道は6月中旬、青森は7月上旬、岐阜は6月中旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

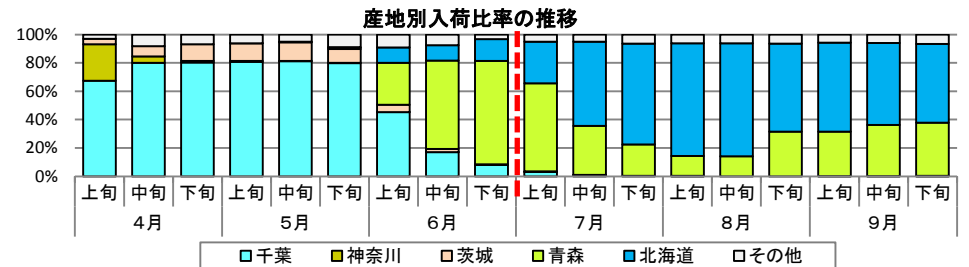
- 供給見通し
 - 作付面積は、前年並みの見込み。青森は微増。
 - 生育状況は、北海道は干ばつの影響で一部、生育遅れが見られたが6月の降雨で回復傾向、青森は春まきは順調に推移、初夏まきの播種時期にややバラつきが見られる、岐阜は順調に推移している。
 - 出荷量は、期間を通じて安定した出荷が見込まれ、少なかった前年をかなり上回る見込み。6月の降雨等の影響で8月に一時、出荷の谷間が出来る可能性がある。
- 需要・価格見通し
 - 価格は、前年は天候の影響から入荷量が少なめとなり、高めで推移したが、本年は順調な出荷が見込まれるため、期間を通じて前年を下回る見込み。
 - 加工・業務用は、冬場より需要は減少するものの、加工用のニーズは一定量あり、今後も継続することが見込まれる。

入荷量の推移等

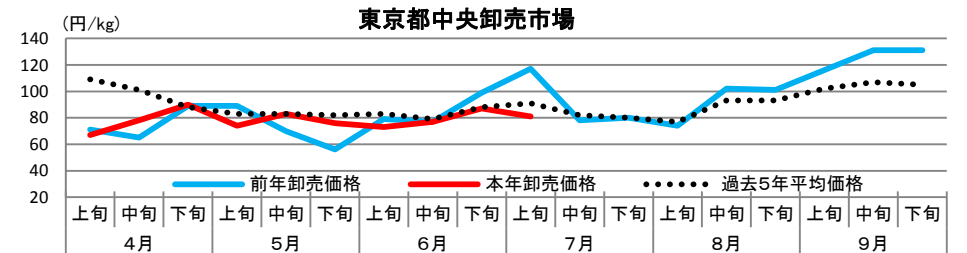


《今後の見通し》

	7月	8月	9月
前年比	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月
前年比	↘	↘	↘

3 たまねぎ（7～10月）

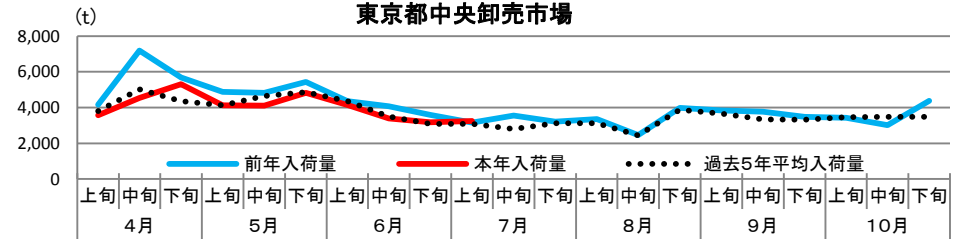
主産地の動向等

- 主な産地：北海道、佐賀、兵庫
 - 作付面積は、北海道は100%、佐賀は95%、兵庫は101%。
 - 生育状況は、北海道は、定植は平年に比べ早く終了し、その後、干ばつ傾向により生育が停滞したが、6月の降雨により回復し、生育は順調となっている。佐賀は、定植は順調に進んだが小玉傾向の見込み。兵庫は、中・晩生種ともに玉肥大は順調となっている。作況は平年を大きく上回り、豊作であった平成23年度並みの見込み。
 - 出荷開始は、北海道は8月上旬（極早生種）、佐賀は5月中旬（中生種）、兵庫は6月中旬（中生種）。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

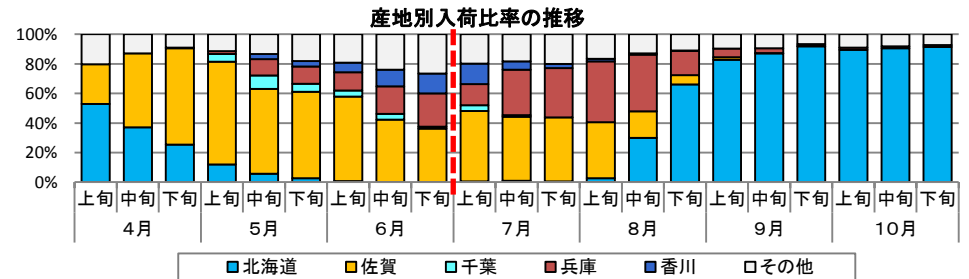
- 供給見通し
 - 作付面積は、前年並みの見込み。佐賀は作付けが減少。
 - 生育状況は、北海道は生育の停滞等があったものの回復し、7月中旬まではおおむね順調に推移、兵庫は玉肥大が順調で平成23年並みの豊作の見込み。
 - 出荷量は、府県産全体では昨年並みの見込み。佐賀は前進出荷となっており、7月以降はやや少なめの見込み。出荷シェアの高い北海道は、不作であった前年を大幅に上回る見込み。
- 需要・価格見通し
 - 価格は、順調な出荷が見込まれることから、7月は府県産が豊作で入荷量が多く安かった前年並み、8月以降は、北海道産が小玉傾向で入荷量が減少し高めで推移した前年を下回る見込み。
 - 加工・業務用は、仕入れ単価の抑制を求められる中で、剥きたまねぎは中国産に一定の需要があり、国内価格が下がっても国内産へのシフトは限定的と見られる。

入荷量の推移等

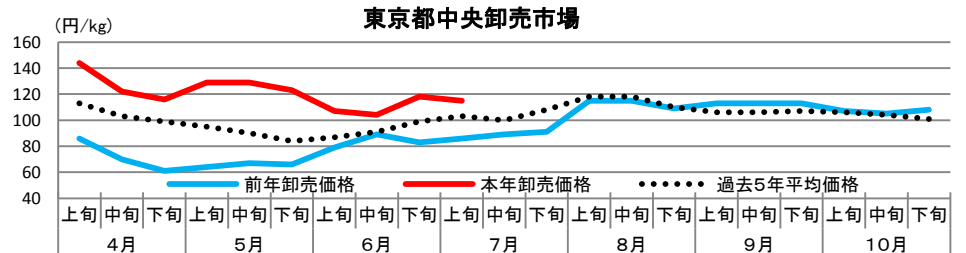


《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
前年比	↗	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
前年比	→	↘	↘	↘

4 秋にんじん（8～10月）

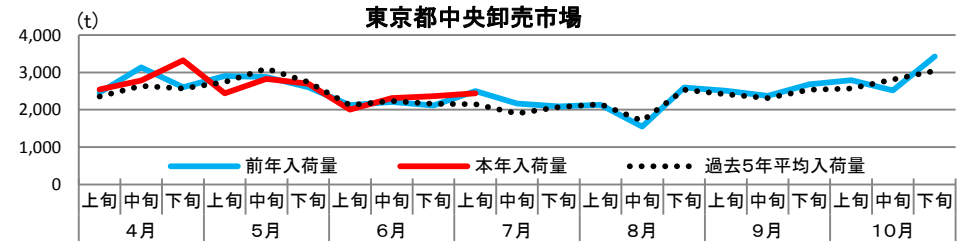
主産地の動向等

- 主な産地：北海道、青森
 - 作付面積は、北海道はホクレン100%、北商108%、青森は98%。
 - 生育状況は、北海道は、天候に恵まれ、播種作業は順調に進んだ。その後、干ばつの影響で発芽率低下や形状不良が心配されたが、6月の降雨で回復。青森は、春まきは播種作業が順調に進み、その後、干ばつの影響で発芽不良の圃場もあるが、それほど影響は見られない。
 - 出荷開始は、北海道は7月中旬、青森は7月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

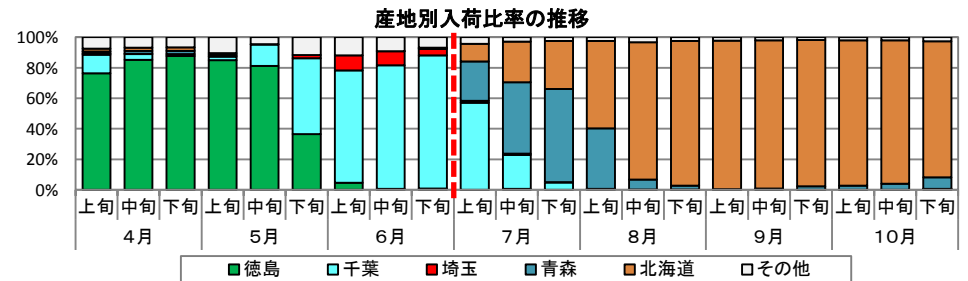
- 供給見通し
 - 作付面積は、前年をやや上回る見込み。
 - 生育状況は、北海道は干ばつの影響が心配されたが、おおむね順調に推移、青森は春まきはおおむね順調、夏まきは6月の降雨の影響で一部の地区で播種が遅れたことから出荷のピークが遅れる見込み。
 - 出荷量は、期間を通じては前年をやや上回る見込み。なお、9月下旬以降に一時、出荷の谷間が出来る可能性があるものの、ほぼ前年並みの見込み。
- 需要・価格見通し
 - 価格は、順調な出荷となり、8月は産地の切り替わり時期となり入荷量が少なく高かった前年を下回り、9月以降は入荷量が順調となり平年並みとなった前年並みの見込み。
 - 加工・業務用は、一部では中国産から国内産へのシフトがあるものの、歩留まり等の関係もあり中国からの一定量の輸入は継続する。

入荷量の推移等

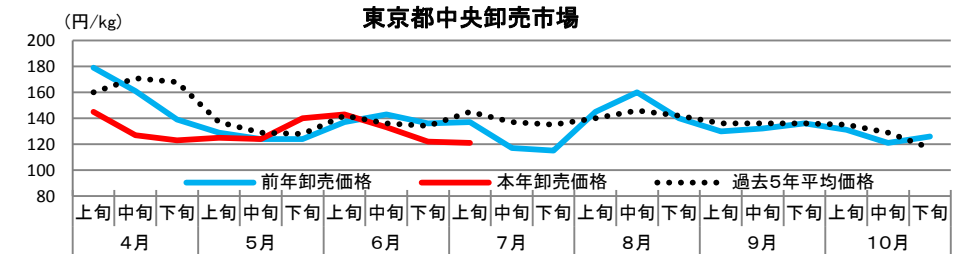


《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	↗	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	↘	→	→

5 夏はくさい（7～9月）

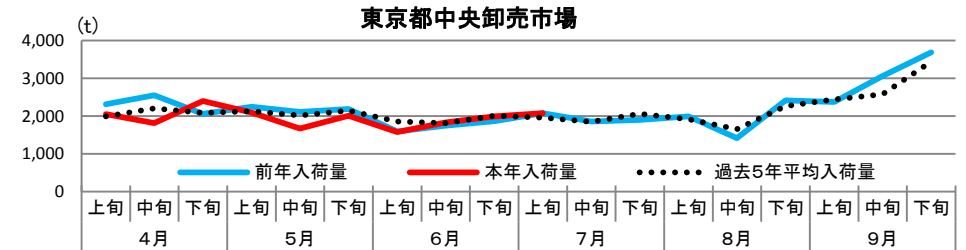
主産地の動向

- 主な産地：長野、北海道、群馬
 - 作付面積は、長野は103%、北海道及び群馬100%。
 - 生育状況は、長野は、梅雨入り後の降水量が多く、やや遅れ気味であるものの玉肥大が良く、大玉傾向となっている。北海道は、定植後の降霜、6月の長雨等の影響はあるが、生育は順調に推移している。群馬は、2月の豪雪の影響は少なく、播種から定植まで平年並みで推移。6月下旬の降雹被害により、一部品質が低下している。
 - 出荷開始は、長野は5月下旬、北海道は7月上旬、群馬は5月下旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

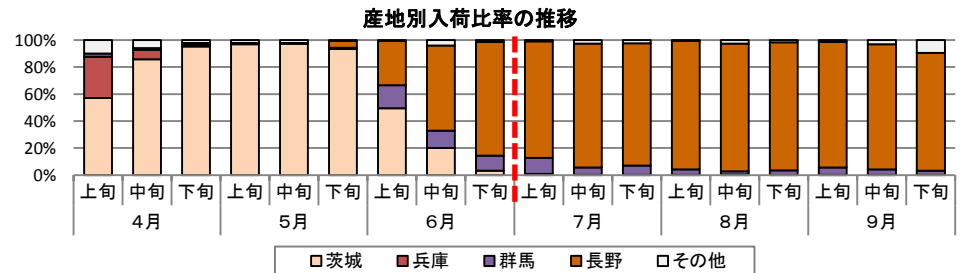
- 供給見通し
 - 作付面積は、前年をやや上回る見込み。長野は秋作の作付けが微増。
 - 生育状況は、長野は大玉傾向、北海道はおおむね順調に推移、群馬は順調に推移しているが、6月下旬の降雹により一部、品質の低下が見られる。
 - 出荷量は、期間を通じては前年をわずかに上回る見込み。長野の秋作の作付けが増加していることから9月の出荷量が多くなる見込み。
- 需要・価格見通し
 - 価格は、前年は加工・業務用原料が市場から調達されたことにより高い水準で推移したが、本年は順調な出荷が見込まれることから、期間を通じて前年を下回る見込み。
 - 加工・業務用は、この時期は漬物や中華系の外食が需要の中心。また、本年は前年が市場からの原料調達に苦労したことから契約取引の割合が高くなっている。

入荷量の推移等

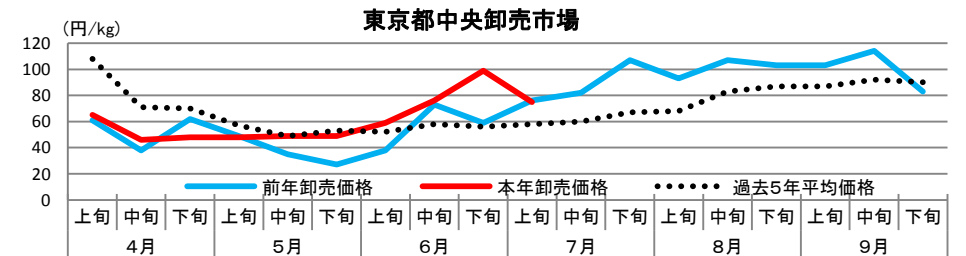


《今後の見通し》

	7月	8月	9月
前年比	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月
前年比	↘	↘	↘

6 夏秋レタス（6～10月）

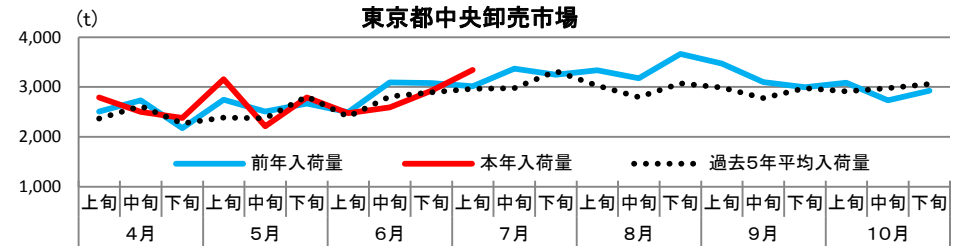
主産地の動向

- 主な産地：長野、群馬、茨城
 - 作付面積は、長野は103%、群馬及び茨城100%。
 - 生育状況は、長野は、定植時期の干ばつ傾向と6月の低温降雨が影響し、圃場ごとの生育進度にバラつきが見られる。群馬は、2月の豪雪の影響により、定植が遅れたが、その後の生育は順調。長雨の影響により、品質低下が見られる。茨城は、播種開始は8月上旬、定植開始は8月中旬、出荷開始は10月上旬となる見込み。
 - 出荷開始は、長野は6月中旬、群馬は4月中旬、茨城は10月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みの見込み。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

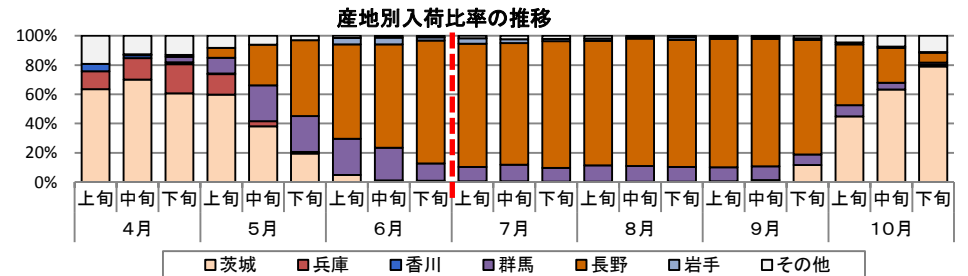
- 供給見通し
 - 作付面積は、前年並みの見込み。
 - 生育状況は、長野は定植時の干ばつ、6月の低温・降雨の影響を受けていることから、今後の天候によって変動する可能性がある。群馬は順調となっているものの、長雨の影響により品質低下が一部で見られる、茨城は8月上旬に播種が開始される見込み。
 - 出荷量は、期間を通じては前年並みの見込み。
- 需要・価格見通し
 - 価格は、順調な出荷が見込まれることから、7月は少雨の影響で入荷量が安定せず高かった前年を下回り、8月は生育が回復し入荷量が多く安かった前年を上回り、9月以降は順調な入荷量があった前年並みの見込み。
 - 加工・業務用は、夏休みに入る7月下旬以降、ファミリーレストラン等の需要が増加することもあり、安定供給の観点から輸入による一定量の対応を予定しているところが見られる。

入荷量の推移等

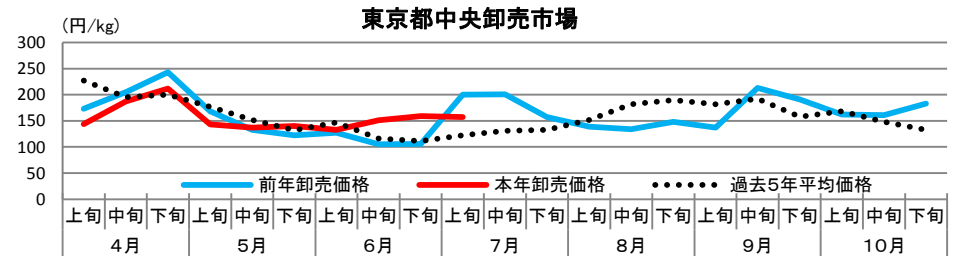


《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
前年比	↗	↘	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
前年比	↘	↗	→	→

その他、夏秋野菜全体の主な消費の動向等

① 景気、天候等の要因による消費動向

- ・景気の好況感が感じられ、品質・価格のワンランクアップ商品の売れ行きや都心部での高単価商品の動きが良いなど、野菜は全体的に好調となっている。
- ・4月の消費税増税の影響については、3月のグロサリー関連の買いだめの影響から客数が減少したことに引きずられ、4月の1週目までは多少影響がみられたものの、2週目以降は影響が見られなくなっている。

② 夏以降の消費を左右する要因、注目している要因

- ・エルニーニョ、梅雨明け時期、長雨等により消費にも影響がでるため、今後の天候を注視する必要がある。

③ 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・スナッフエンドウ、ズッキーニ、マッシュルームは、毎年販売量が増加している。
- ・腎臓病患者を対象とした低カリウム商品（レタス等）は、百貨店を中心に販売量が増加している。
- ・マルシェ等では、コールラビ、スイスチャードなど珍しい野菜を取り扱うことにより、集客することができる。販売を拡大するためには、店舗側のメニュー提案等の販売する力が重要である。
- ・水耕栽培のリーフレタスの販売量が増加している。
- ・今後、機能性成分に着目した食品・野菜（リコピン含有量の多いトマト等）の取り扱いを増やす意向がある。

④ その他

- ・物流トラックにおける1日あたり運転可能時間（自動車運転者の拘束時間）が規制されるため、今後、物流ドライバーが不足して、遠隔地等からの野菜の流通にも影響することが懸念されており、広域的な物流システムの整備が重要となってくる。また、長距離の場合は、2名のドライバーが必要となり、輸送コストが高くなる。
- ・一部の産地では農作業について外国人研修生の受け入れを行っていたが、希望者が減少していることから、今後の農作業への影響も一部で懸念される。